届け 世界の果てまでも

令和５年２月１４日　No．６６　文責　校長　飯久保一男

おかげさま

アメリカでは成果がなくても「給料をもらって“当たり前”」「手厚い待遇を受けて“当然”」という意識があり，たとえ，いい加減な仕事をしていても「自分は給料をもらう権利がある」と堂々と主張するそうです。

…今，アメリカでは，権利の意識が行き過ぎていると自国内での批判も増えているそうです。

しかし，日本人は，

「私などは，まだまだです」

「こんな至らない自分にやらせてもらっていいのでしょうか。」

「このような機会を与えてくださり，“ありがとう”ございます」

「今の自分があるのは，支えてくれるみなさんの“おかげ”です」

などと謙虚な言葉を口にします。日本人の謙虚な姿勢は，世界に誇れることです。そして，その気持ちは「ありがとう」「おかげ（さま）」などの感謝の言葉にも表れます。

ある調査によると「ありがとう」の反対語は何かという質問に「ごめんなさい」と答えた人が多数を占めたとのことです。「ありがとう」は漢字では「有難う」と書きますので「有ることが難しい＝めったにないこと」という意味です。めったにないことをしてもらったときの感謝に使うのが本来の意味の「ありがとう」です。そう考えると「ありがとう」の反対の意味は「普通のこと」になります。ですから「ありがとう」の反対語は「当たり前」や「当然」となります。

「当たり前」は「一人“当たり”の分け“前”」を省略した言葉だそうです。はるか昔，縄文時代の人々は，力を合わせて狩りや漁をしました。獲物は全員で公平に分けました。みんなで協力して狩りや漁をしたとき，公平に獲物を分けて，その一人分をもらうことが「当たり前」の本来の意味です。協力して何かをしたときに分け前をもらうことは，アメリカ人なら「当たり前」の権利だと主張するでしょう。

しかし，縄文時代の人々は，お互いに助け合ったからこその獲物であり，自分の知らないところ（陰）で，誰かが助けてくれていたからこその獲物であると考えたのです。古来より，日本人は，一人当たりの分け前は「当たり前」ではなく，みんなの「おかげ（お陰）」でいただけると感謝の気持ちをもつ民族なのです。

１月の終わりの給食週間のときに配付しました本紙面では，給食に関わる人々についてのことや，子どもの作文を紹介しました。給食に関わる人々のことを考えると，たくさんの人々の「おかげ」で給食を食べることができています。毎日繰り返されるので「当たり前」のように感じてしまいますが，決して当たり前ではなく感謝していただくものであると思います。給食費を払っている（現在は無償です）のだから感謝の必要はないという考えもあるようですが，謙虚な日本人は感謝の気持ちを表します。その感謝の気持ちが「いただきます」「ごちそうさま」という言葉に表れています。海外では「いただきます」「ごちそうさま」にあたる言葉はあまりないようです。

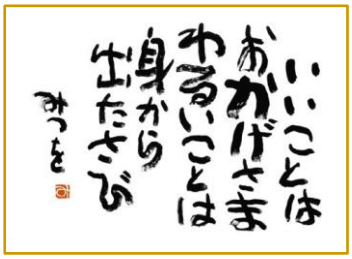
自分の知らないところで，たくさんの人が支えてくれています。「おかげさま」の気持ちをもって過ごしたいものです。また，実際にそれを感じたら「ありがとうございます」と感謝の気持ちを表したいものです。

本校の一例です…。教室のストーブに給油するためには，灯油の入った18ℓ入りポリタンクを職員室から運びます。２階・３階の教室まで灯油を運ぶのは重労働です。基本は担任の仕事ですが，私も若いころは先輩方の教室のストーブにも給油していました。本校でも若手教員がよく灯油を運んでいる姿を見ます。若手教員は「当たり前」のこととしてやっていますが，ベテラン教員は「おかげさま」と感謝しています。「当然」ベテラン教員は別の仕事で若手を助けています。

ステキなコラムを見つけました。

家族で自宅から少し離れたレストランで食事をし，支払いを済ませて車に乗り込んだ。
もうすぐ家に着くというところで，父が突然「店に引き返せ。」と大声で言った。
「注文した料理の合計と支払った金額が合わない。支払ったのが５００円少なかった。」
父は，長いこと珠算の先生をしてきたので間違いはないはずだった。
「今から行っても店は閉まっているだろうから，俺が明日，仕事の帰りに不足分を支払ってくるよ。」
父を説得してそのまま帰宅した。

翌日の昼すぎ，私の職場に父から電話が入った。
「何か悪いことをしたような気持ちになって，一睡もできなかったので，朝一番でレストランに行って支払ってきたから，お前は行かなくていい。」
聞けば，往復７，０００円のタクシー代をかけたのだという。
「なんてばかな。そして，なんて素晴らしい父だろう。」と尊敬した。



父は６年前に亡くなった。遺言には次のこと書かれていた。
「残したお金はすべて恵まれない人に寄付すること。
香典は受け取らないこと。
そして，自宅は人のために役立てること。」
私は，その通りに実行した。
今，父と住んでいた家は，ホームレスのための共同生活施設として提供している。

呼吸と同じで，お金も物も出さないと入って来ない。
何かいただき物があると，必ず周りの人に差し上げるようにしている。
すると，それ以上のものが返ってくる。
人は一人では生きていけない。
“おかげさま”の心を父から学んだ。

コラム内の書：相田みつを…詩人・書家。平易な詩を独特の書体で書いた作品で知られる。「書の詩人」「いのちの詩人」とも称される。

◆◆◆◆◆◆◆　陰で支えること　…変な自慢になりませんように。

担任をしていたとき，１か月ほどの研修に行かせてもらったことが２回あります。何度か書かせてもらったニュージーランドへの海外研修のほかに，文部科学省が主催する「中央研修※」にも行かせてもらいました。

中央研修の時期は，６年担任をしていた１０月中旬から１１月中旬の１か月間でした。はじめにその話をいただいたとき「６年担任だし，陸上記録会や文化発表会など大きな行事もある時期だし…」と校長に辞退を申し出ました。ところが「めったに行けない研修にせっかく推薦してもらったのに，断った人間を聞いたことはない！」と校長に一喝されました。ある意味しぶしぶ行くことにし，１か月も留守をしますので，代替教員にクラスに入ってもらいました。

研修を終えて学校に戻ると，文化発表会担当の音楽主任から，私がいなかったので文化発表会の取り組みが大変だったとの話がありました。私は行事のときは，練習開始前から毎日，６年生たちと道具を運ぶこと，ひな壇の設置や微調整，放送の準備，片付けや掃除，暗幕の開け閉めなど（体育館 ver.）の役割分担のはっきりしない仕事を勝手に受け持っていました。音楽主任は例年と同じ計画で進めたのに，なぜうまくいかなかったのか相談したところ，いつもは下仕事を私がやっていたことに気づかされたとのことでした。私のいなかった文化発表会の総括の職員会議で音楽主任（それまであまり仲のよくなかった）からお褒めの言葉をもらったのでした。

※中央研修…つくば市（筑波研究学園都市）に教員研修施設があり，全国から教員が集まって宿泊して研修をします。